

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	現代文総合	2単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 「論理国語」「文学国語」(筑摩書房) 補助教材 「新総合ガイド〈五訂版〉」(京都書房) 「入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500」 (いづな書店) 「評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版」(いづな書店) 「ちくま評論選(二訂版)問題集」(筑摩書房)	教科担当			

1 学習の目標

(1) 論理展開や場面展開を理解し、記述に応じた客観的な読み方ができる。(2) 評論に多用される語彙や概念を理解し、抽象的な思考ができる。(3) 長文評論を正確に適度な速度で読める。(4) 目的や意図に応じた文章が書ける。(5) 目的や場に応じた的確に聞き話すことで自分の考えを深める。(6) 漢字・語句の習熟

2 授業内容

1年次の「現代の国語」で学んだ基礎的な学力をもとに、発展・定着させられる題材を通して、よりレベルの高い思考力・判断力・表現力を養成する。そのためにも、補助教材(「新総合ガイド〈五訂版〉」)を使った調べ学習、毎時間の漢字や語彙の小テスト(「入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500」「評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版」)、定期的に要約や自身の考えを書く表現課題等(「ちくま評論選(二訂版)問題集」)を行っている。

3 学習方法

予習 本文を事前に通読し、わからない語句・筆者について調べておく。(「新総合ガイド〈五訂版〉」「入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500」「評論・小説を読むための 新現代文単語 改訂版」を活用)
復習 授業内容を確認して、文章の構成に留意しながら、文章の展開と主張を的確に整理する。
課題 授業で課された課題や補助教材を主体的に取り組み、発問の解答練習を繰り返す。(「ちくま評論選(二訂版)問題集」を活用)

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

・ 定期考査以外に、現代単語や漢字の読み書きを問う小テストや要約文作成等を実施し、評価する。

【思考力・判断力・表現力等】

・ 副教材の文章を自学自習的に読ませることで多様な文章に接する機会を増やすとともに、設問解答の方法に慣れさせ、それらを総合した形で定期考査問題を作成し、日常的な学習活動の成果を加味して評価する。

【主体的に学習に取り組む態度】

・ 定期考査前後の提出物、長期休み明けの提出物や授業内に提示された提出物等で評価する。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期(26時間)	2学期(28時間)	3学期(16時間)
-------	----	-----------	-----------	-----------

6 授業計画 各クラスの生徒の実態に合わせて、教材の順序や時数を変更する場合がある。

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期	4	・原研哉「情報の彫刻」	・電子メディアと紙媒体の特色と役割について考える。	・筆者のものの見方、考え方、感じ方を読み取り、普遍性、創造性について思索を深めることができる。	4
	5	・長田弘「アイオワの玉葱」 ・内田樹「物語るという欲望」	・言葉について考察し、他者理解のあり方について考える。 ・日常における「物語る」ことの役割について考える。	・言葉による世界の成立、働きについて理解できる。 ・筆者のものの見方、考え方、感じ方を読み取り、普遍性、創造性について思索を深めることができる。	8
	6	・中島敦「山月記」	・世界の中にある真実を読み取り、人間心理や人間関係への理解を深める。 ・場面を区切って読み、「変身」をめぐる彼の考えや心情の変化を整理する。	・文学的文章について、人物、情景、心情などを的確に捉えることができる。	12
	7	・鷗田清一「身体、この遠きもの」	・文学的文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わう。	・自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養い、理解することができる。	2
2 学 期	8・9	・加藤周一「文学の仕事」 ・「ファンタジー・ワールドの誕生」	・論理的な文章について、理の展開や趣旨を的確に捉える。 ・抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。	・合理性を超えた価値について理解する。 ・分掌の要旨をもとめ、構成を理解し内容を的確に捉えることができる。 ・時代背景や人物の心情、情景などを的確に捉え理解することができる。	13
	10	・夏目漱石「現代日本の開化」	・夏目漱石の文学・思想について、相互関連を学ぶ。	・夏目漱石の文学・思想について、相互関連を理解することができる。	2
	11	・夏目漱石「こころ」	・語りの構造、人物設定、筋立て、伏線等から作品の構成を捉え、小説を読む面白さを味わう。	・「私」の心情の変化と、それに伴う行動を理解することができる。	11
	12	・問題演習	・大学入試を意識した問題演習に取り組み、基礎的な読解力を養う。	・問題演習を通して、基礎的な文章読解力、記述力を含む解答力を養うことができる。	2
3 学 期	1	・宮沢賢治「永訣の朝」	・場面に区切り、情景、心理変化を読み取る。 ・表現上の特徴や工夫について考える。 ・作品の背景を調べる。	・宮沢賢治の世界観・宇宙観を理解することができる。 ・韻文のもつリズムや音感を捉え、表現のつながりを感じ取ることができる。	6
	2	・丸山眞男「であることとすること」	・論理的な文章について、論理の展開や趣旨を的確に捉える。	・論理の展開や要旨を叙述に即して的確に捉えることができる。 ・筆者の主張を現代社会の問題に当てはめて考察できる。	8
	3	・問題演習	・大学入試を意識した問題演習に取り組み、基礎的な読解力を養う。	・問題演習を通して、基礎的な文章読解力、記述力を含む解答力を養うことができる。	2

7 学習者へのメッセージなど

現代文の読解力は身に付くまでに時間がかかるため、勉強を疎かにしていると3年生で後悔します。そのようなにならないためにも、日頃の筑摩の課題を含めて授業以外でも自分自身で勉強をしていくことが重要です。現代文単語も英単語や古文単語と同様に覚える努力をし、3年生で問題演習をしていくための準備をしていきましょう。また、現代文が苦手な生徒は2年生の内に現代文を克服しましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	国語 (古典探究)	3単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 「精選 古典探究(古文編・漢文編)」(東京書籍) 補助教材 「体系古典文法〈九訂版〉」(数研出版) 「読んで見て覚える古文単語315」(桐原書店) 「新明説漢文」(尚文出版) 「漢文必携ノート」(桐原書店) 「新訂国語総合ガイド〈五訂版〉」(京都書房) 「3ステップオリジナル問題集 錬成古典」(尚文出版)	教科担当			

1 学習の目標

- ・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
- ・古典の言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、その理解力、表現力の向上を図る態度を育てる。

2 授業内容

教科書の文章をとり扱い、古文・漢文の文章を読解していく。
適宜、古文単語帳・体系古典文法・新明説漢文等を用いて基礎的事項の定着を図り、初見の文章にも対応できる応用力の土台を養う。

3 学習方法

- 予習** 古文は本文を写し、語句の意味を調べ、脚注の語句の意味を利用し、口語(現代語)訳する。漢文は、書き下し文を作り重要な句形や語を調べ、口語(現代語)訳する。
- 復習** 古文も漢文も、繰り返し音読する。これが言語学習の基本となる。
口語訳のために重要な文法事項を反復・復習して暗記する。
重要な句形や語を反復学習して暗記する。作品が成立した時代を確認し、その時代背景を調べ、読解に役立てる。
- 課題** 「錬成古典」問題集を、考査毎の課題とする。学習者自身が工夫して書き込みをして理解を深める。
模擬試験や考査でできなかった問題を都度復習する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

- 年5回の定期考査のほかに授業中の確認テスト、課題提出などを通じて以下の標準的事項を確認する。
- ・古典を理解するに当たっての基本的な語彙を身に付けること。
 - ・助詞・助動詞の意味用法、敬語法、句法などの基本的な文法事項。
 - ・文章を文脈から判断して正しく理解できる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・年5回の定期考査での記述、演習問題の成果物、課題などから、文章の主題・大意を掴むための読解力を身に付けていることを確認する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・予習復習、提出物、授業中の取り組み姿勢を重視する。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期 (39 時間)	2 学期 (42 時間)	3 学期 (24 時間)
-------	--------	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期	4	古文 物語	伊勢物語「初冠」 ・物語を読み、その構成や展開に即してあらすじを捉える。	① 用言、助動詞を正確にとらえて文法訳ができる。 ② 平安期の習俗、物語文学の系譜の理解を深めている。 ③ 使役形、抑揚形、反語形の型を修得している。	9
	5	漢文 小話	十八史略「先従隗始」 ・話の展開を読み取りながら、古代中国の故事の面白さを味わう。	④ 論の展開の巧みさ、寓意による主張を読み取っている。	16
	6 ・ 7	古文 随筆	枕草子「すさまじきもの」 「中納言参り給ひて」 ・随筆を読み、筆者の人生観に触れ、ものの見方、感じ方を豊かにする。	① 敬語を正確にとらえて、人物関係が理解できる。 ② 三大随筆、平安女流文学の理解を深めている。	14
		漢文 文章	楚辞「漁父辞」 ・古代中国の歴史や思想を背景とした奥深い文章を鑑賞する。	③ 対句に注目し、流麗な文体と構成を把握している。 ④ 文章の背景と作者の人生観を理解している。	
2 学 期	7 ・ 8	古文 歴史物語	大鏡「花山天皇の出家」 ・歴史的事実をもとにして生まれた物語の劇的な展開を楽しみ、登場人物の心情を読み取る。	① 歴史的事実と虚構としての歴史物語の違いを読み取っている。 ② 登場人物の心情を正確に読み取り、現代に通じる要素をとらえている。	9
	9	漢文 史話	史記「鴻門の会」 ・古代中国の歴史の劇的な面白さを味わう。	③ 古代中国史の、時代を決定づける劇的な場面の見せ方の工夫を把握しようとしている。 ④ 漢文の句法や語彙の知識を結びつけ、自らの力で長文の漢文を読み切ることができる。	12
	10	古文 三大和歌集・日記	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 蜻蛉日記「なげきつつ」 ・音読に慣れ、リズムの心地よさを楽しむ。 ・登場人物の心情を正確に読み取り、現代に通じる感性を味わう	① 和歌の修辞法について知識を整理する。 ② 三大和歌集の特徴の違いをふまえて歌意をとらえる。 ③ 平安女流日記史について理解し、文学史的知識を用いて主語や意図を読み取る力を身につける。	9
	11 ・ 12	古文 日記 漢文 史話	更級日記「源氏の五十余巻」 史記「四面楚歌」 ・古代中国史のダイナミックな展開を味わう。	④ 漢詩の基本について理解を深める。	12
3 学 期	1	古文 物語	源氏物語 「光源氏誕生」「若紫」 ・敬語に注目し、主語を読み取りながら内容を整理する。 ・時代背景、中国文学との連関について調べる。	① 古文の読解に必要な基本語彙や、助詞・助動詞および、敬語を含めた文法事項を総合的に完成する。 ② 諸子百家それぞれの思想の違いを理解する。 ③ 問答形式といった論理的構成の特徴を理解する。	10
	2 ・ 3	漢文 思想	孟子・荀子 ・人間をめぐる古代中国の様々な考え方を読み取る。 ・中国の思想について学ぶ。		14

7 学習者へのメッセージなど

古典の学習では、基本古語を身につけることと基本的な文法事項を理解することが最も重要です。それらを読解に活かし、文章の構成を捉え文章の主題・大意を正確に把握する営みへ発展させていきます。また文学史や古典常識の知識を増やすことも、読解の大きな助けになります。小テストや練習問題で基礎・基本を確実に定着させていきましょう。授業の予習・復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	歴史総合 (日本史分野)	2単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 山川出版社 歴史総合 近代から現代へ 補助教材 浜島書店 新詳日本史	教科担当			

1 学習の目標

日本の近代史および現代史の特徴をアジア諸地域や欧米諸国あるいはその他の諸地域とのつながりのなかで捉え、教科書や資料の読解を通して歴史上生成した諸問題を自ら考察し表現する力を身に付ける。

2 授業内容

一人一台端末を活用して、生徒同士の共同学習を促しつつ、自国史の学習を通し、社会的事象に対する歴史的な見方・考え方を身に付け、課題を追究したり解決したりする学習活動を通して、異なる考え方にふれ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 学習方法

予習 教科書を読み込む。
復習 授業プリントで振り返りを行うとともに、教科書・資料集を読み込む。
課題 授業ごとの学習テーマに関する論述。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

日本史で大学受験をする生徒たちを対象とした講座につき、歴史的思考力を養うとともに、志望校の入学試験に合格できるレベルの日本史の知識を身につけさせる。グローバル化が進展するなかで世界の動きを理解するのに必要な外国との交流史を学び、大学入学後のより深い学習に主体的にむかうための、基礎力を身に付けさせる。

【思考力・判断力・表現力等】

歴史史料の読解を通し、論理的に考える力や時代時代の人間社会に対する洞察力を深め、それを言語で表現できる力を高める。また、考え表現したことを周囲に伝え、また聴く力を高め、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

自国史の学習を通し、過去からつながる現代に対する興味関心を高め、社会科学的な思考力を身に付け、自分と他者とのつながり、自国と他国とのつながりを考察し、社会をよくするために主体的に行動ができる人間をとしての土台を育成する。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (34時間)	2学期 (36時間)	3学期 (時間)
-------	----	------------	------------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 5	近代化と私 たち	日本の開国	国際関係の変化や開国と関連付けての、歴史用語と歴史事象の理解することができる。	1 7
	6 7	近代化と私 たち	明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲政治	・大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。 ・自由民権運動の展開について、民撰議院設立の建白の史料をもとに、その目的を整理し理解している。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解し、その下で成立した制度や諸法典の内容を理解している。	1 7
2 学期	9 10	帝国主義の 展開とアジア	条約改正と日清戦争 日露戦争とその影響	・明治政府の条約改正の展開が、清を中心とした東アジアの国際関係にどのような影響を与えたのか理解している。 ・日清戦争の原因・過程・結果を年表にまとめている。 ・列強が中国に進出したことに対して、中国の人々はどのように対応したかを理解している。 ・日露戦争がおきた背景・過程・結果を年表にまとめている。	1 8
	10 11	経済危機と 第二次世界 大戦	日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き 太平洋戦争	・金融恐慌がおこった原因・過程・結果について理解している。 ・二・二六事件のおこった背景・過程について考察したうえで、その後の政府・軍部の動向を理解している。 ・日中戦争のおこった背景・過程について理解している。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。	1 5
	12	戦後の国際 秩序と日本 の改革	占領下の日本	・日本の占領政策の転換について、その理由を考察し、どのように進めたかを理解している。	3

7 学習者へのメッセージなど

既習知識が増えて、政治史・経済史・文化史の流れが緻密に捉えることができるようになると、自国史ならではの現代の日本社会に繋がる考察ができるようになり、面白みが増します。読む・聞く・書く・考えるという過程を通して、多角的に日本や世界を考察する力をつけていこう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	歴史総合 (世界史)	2単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 『歴史総合 近代から現代へ』 山川出版社 補助教材 『アカデミア世界史』 浜島書店	教科担当			

1 学習の目標

歴史の大きな流れを理解し、それを未来に活かす

2 授業内容

歴史の知識をもとに、歴史の大きな流れを主体的・対話的にまとめる

3 学習方法

予習 示された歴史用語について最低3つの情報を載せた一文を作成する。

復習 すべての論述を「ひとつながり」にする。

課題 特になし

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】 基本的な世界史の知識を取得しているか。世界地図を手描きで書くことができるか

【思考力・判断力・表現力等】 基本的な世界史の知識を用いて、文章を作成することができるか。

【主体的に学習に取り組む態度】 授業の中で主体的・対話的な知識獲得に意欲的に取り組んでいるか。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (34 時間)	2 学期 (36 時間)	3 学期 (時間)
-------	-------	--------------	--------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	近代のはじまり	大航海時代 ルネサンス 宗教改革	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	5	近代の展開 1	スペインの全盛 オランダ・イギリスの勃興 東アジアの情勢	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	6	近代の展開 2	オランダとイギリスの拮抗 明・清の交替	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	7	近代の展開 3	フランスの急迫とイギリス・オランダの合同	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	4
2 学期	9	近代の展開 4	イギリス産業革命の萌芽 英仏の抗争	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	10	近代の展開 5	アメリカ独立革命	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	11	近代の展開 6	フランス革命とナポレオン 1	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	10
	12	近代の展開 7	フランス革命とナポレオン 2	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	6
3 学期	1				
	2				
	3				

7 学習者へのメッセージなど

楽しく学んでいきましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	精選歴史探究 (日本史)	1 単位	学校必履修	学年	2 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 『詳説日本史 日本史探究』 (山川出版社) 補助教材 『新詳日本史』 (浜島書店)	教科担当			

1 学習の目標

自国史の学習を通し、社会的事象に対する歴史的な見方・考え方を身に付け、課題を追究したり解決したりする学習活動を通して、異なる考え方にふれ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを

2 授業内容

一人一台端末を活用して、生徒同士の共同学習を促しつつ、自国史の学習を通し、社会的事象に対する歴史的な見方・考え方を身に付け、課題を追究したり解決したりする学習活動を通して、異なる考え方にふれ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 学習方法

予習 教科書を読み込む。
復習 授業プリントで振り返りを行うとともに、教科書・資料集を読み込む。
課題 授業ごとの学習テーマに関する論述。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

日本史で大学受験をする生徒たちを対象とした講座につき、歴史的思考力を養うとともに、志望校の入学試験に合格できるレベルの日本史の知識を身につけさせる。グローバル化が進展するなかで世界の動きを理解するのに必要な外国との交流史を学び、大学入学後のより深い学習に主体的にむかうための、基礎力を身に付けさせる。

【思考力・判断力・表現力等】

歴史史料の読解を通し、論理的に考える力や時代時代の人間社会に対する洞察力を深め、それを言語で表現できる力を高める。また、考え表現したことを周囲に伝え、また聴く力を高め、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

自国史の学習を通し、過去からつながる現代に対する興味関心を高め、社会科学的な思考力を身に付け、自分と他者とのつながり、自国と他国とのつながりを考察し、社会をよくするために主体的に行動ができる人間をとしての土台を育成する。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	3 学期 (18 時間)

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
3 学 期	1	第7章戦後の 国際秩序と日 本の改革	日本の高度経済成長	冷戦やグローバル化の進展の影響 などに着目して、戦後の日本経済の 成長や高度成長期の国民生活や地 域社会の変化に関わる諸資料から 情報を読み取っている。	6
	2	第7章戦後の 国際秩序と日 本の改革	冷戦の終結 国際社会のなかの日本	ドル＝ショックや石油危機による 世界経済の混乱に対応するため主 要先進国首脳会議が開かれる一方、 日本は石油危機を乗り越えて経済 大国となったことを理解している。	6
	3	第7章戦後の 国際秩序と日 本の改革	現代日本の諸課題	冷戦終結後の国際関係、55年体制が 崩壊した政治状況、バブル経済から 平成不況へと進んだ経済状況など について理解している。	6

7 学習者へのメッセージなど

既習知識が増えて、政治史・経済史・文化史の流れが緻密に捉えることができるようになると、自国史ならではの現代の日本社会に繋がる考察ができるようになり、面白が増します。読む・聞く・書く・考えるという過程を通して、多角的に日本や世界を考察する力をつけていこう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	精選歴史探究 (世界史)	1 単位	学校必履修	学年	2 年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 世界史探究 詳説世界史 山川出版社 補助教材 アカデミア世界史 浜島書店	教科担当			

1 学習の目標

歴史の大きな流れを理解し、それを未来に活かす

2 授業内容

歴史の知識をもとに、歴史の大きな流れを主体的・対話的にまとめる

3 学習方法

予習 示された歴史用語について最低3つの情報を載せた一文を作成する。

復習 すべての論述を「ひとつながり」にする。

課題 特になし

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】 基本的な世界史の知識を取得しているか。世界地図を手描きで書くことができるか

【思考力・判断力・表現力等】 基本的な世界史の知識を用いて、文章を作成することができるか。

【主体的に学習に取り組む態度】 授業の中で主体的・対話的な知識獲得に意欲的に取り組んでいるか。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (時間)	2 学期 (時間)	3 学期 (35 時間)
-------	-------	------------	------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4				
	5				
	6				
	7				
2 学期					
3 学期	1	現代のはじまり 1	1815～1820 年代の世界	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	12
	2	現代のはじまり 2	1830 年代の世界	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	12
	3	現代のはじまり 3	1848 年までの世界	歴史の大きな流れを把握し自分のことばで記述できるようにする。	11

7 学習者へのメッセージなど

歴史を楽しく学んでいきましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学Ⅱ (第2学年)	3単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数学Ⅱ (数研出版) 補助教材 サクシード数学Ⅱ+B 基礎からの数学Ⅱ+B (青チャート) スタディサプリ	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、場合の数と確率、図形の性質では、事象を数学化したり、法則性を見出し、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。また、事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学と人間の活動では、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養うとともに、人間がどのようにして数学を活用してきたか、その歴史を辿りつつ、数学が現代においてどのように生かされているかについて理解を深める。全体を通して、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

高校1年生で学んだ知識を土台として、さらに体系的に数学を理解し、発展的に思考を深めて数学Ⅲでの問題解決につながるような学びを得ることを目的とした学習を行う。
授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャート式、スタディサプリ および大学入試問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。
復習 サクシードやチャート式を用いて反復練習をする。また、理解を深めるために、サクシードやチャート式にある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく、授業担当者に質問すること。
課題 定期考査ごとにサクシードの演習ノートを提出する。長期休業期間にはチャート式を用いた課題がある。また、週末を中心に Teams 上に課題があがることもある。また、通年で定期的にスタディサプリの課題配信も行う。いずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
三角関数、指数関数・対数関数、微分法、積分法の各分野において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
問題を数学的に考察して解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (39時間)	2学期 (42時間)	3学期 (24時間)

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期	4	第4章 三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数とその性質・グラフ 3 三角関数の応用	角の大きさの測り方としての「弧度法」の有用性を理解し、座標平面上の点の座標をもとに三角関数を定義することができる。 ・基本的な三角関数の性質を理解し、グラフの特徴を理解してグラフを描け、対称性や周期性について一般化して処理することができる。	15
	5		4 加法定理 5 加法定理の応用 6 三角関数の合成		
	6	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張と負の数の n 乗根 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数 6 対数と無理数 応用演習	・三角関数の加法定理について、その図形的な性質を理解したうえで、自ら証明することができるようになる。また、加法定理を使って、2倍角や半角、合成を理解し、方程式や不等式などの基本的な問題処理ができるようになる。 ・累乗根の意味を理解し、指数を任意の実数に拡張できる。 ・指数関数を定義し、各性質を調べることができる。 ・対数の定義や性質を理解し、指数と対応させて対数関数についての問題を処理することができる。 ・対数の応用としての常用対数を理解することができる。	15
	7	第6章 微分法と積分法	1 微分係数 関数の極限值 2 導関数	関数の局所的な状態を明らかにするために、関数についての極限の概念を使って関数の変化率を考えることができる。	9
2 学 期	8	第6章	関数の導関数の公式の証明	・導関数を利用することによって、関数の値の増減や極大・極小などを調べて関数の性質を考察することができる。 ・不定積分の定義や意味を理解し、多項式の不定積分を求めることができる。 積分と面積の関係および定積分の基本的な性質を理解しそこに基づいた計算を習得する。 ・定積分の応用として、多項式の関数が表す平面図形の面積を求めることができる。	20
	9	微分法と積分法	3 接線 4 関数の値の変化 5 最大値・最小値 6 関数のグラフと方程式・不等式 応用演習		
	10		7 不定積分 8 定積分 9 面積 放物線と直線で囲まれた面積 応用演習		
	11 12		数学Ⅱ総復習		
3 学 期	1	文系	文系	既習事項を体系的に捉え、実際の受験問題を処理することができるようになる。 2年間の既習内容を整理し、数学Ⅱの微分法・積分法をもとに、関数の極限について理解し、標準的な計算問題を処理することができる。	24
	2	数学総復習	1、2年の総まとめおよび受験問題演習		
	3	理系 発展演習	発展学習（関数と極限）		

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+ α の内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。高校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

復習の仕方として、参考例を3つ紹介します。

- ① サクシードA*と重要例題を中心に学習する。
- ② スタサブ（スタンダードコース）を視聴し、スタサブの問題を解く。
- ③ 青チャート🕒～🕒🕒🕒レベルを解き進める。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学Ⅱ	2単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数研出版 数学Ⅱ(数Ⅱ/709) 補助教材 数研出版 リピート 数学Ⅱ+B 数研出版 リピート 数学Ⅱ完成ノート 数研出版 解法と演習 数学Ⅱ+B(黄チャート)	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

式と証明、図形と方程式、三角関数、指数・対数、および微分・微分積分の考えについて理解させる。基礎的な知識の習得と技能的な習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を涵養する。教科書の「例」と「例題」の説明を中心に授業を展開する。「問」を題材に演習を行う。また、問題集(リピート)や節末問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図るとともに、数学的な思考力・応用力を高める。

3 学習方法

予習 用語・定理・公式を知ることを中心に、教科書やプリントに目を通し、授業の流れを理解した上で授業に臨むようにする。
復習 授業内容を定着させるために、プリント・ノートを振り返り、問題集(リピート)の問題に完成ノートに記入する方法で取り組む。数学が得意な生徒は、黄チャートにある応用問題に取り組む。
課題 定期考査ごとにリピート完成ノートを、長期休業期間ごとに黄チャートの指定問題の提出を課す。スタディサプリの課題を適宜課す。これらにより、基本内容の定着を促進し、数学的思考・表現を身に付ける。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

問題を数学的に考察して解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期 (3 9 時間)	2 学期 (4 2 時間)	3 学期 (2 4 時間)
-------	--------	----------------	----------------	----------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1章 式と証明	第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	3次式の因数分解や二項定理の利用ができる。多項式の割り算と分数式の計算を習熟する。恒等式の考え方と方程式との違いを理解させる	9
	5		第2節 等式と不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	証明の流れ、論理の正確な展開や相加・相乗平均の関係を理解させる	8
	6	第2章 等式と不等式の証明	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	虚数の概念とその計算法に習熟する。2次方程式の判別式と解と係数の関係を理解する。2次関数のグラフと結び付けて考える。因数定理を用いて高次方程式を解く	10
	7	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	2点間の距離。内分点・外分点の座標を求めることができる。直線の方程式と平行・垂直の関係を考える。	8
			第2節 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円	円の方程式を求めることができ、直線との位置関係を考察できる。2円の共有点が求められる。	5
2 学期	8	第3章 図形と方程式	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	条件を満たす点の軌跡が求められる。不等式の表す領域が図示できる	6
	9	第4章 三角関数	第1節 三角関数 1. 一般角と弧度法 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用	弧度法による角の大きさの表現ができる。三角関数の相互関係を確認する。三角関数のグラフがかけ、係数等による変形を理解する。方程式、不等式を解くことができる。	12
	10		第2節 加法定理 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 三角関数の合成	加法定理を理解し、新しく三角関数の値を求められる。加法定理から新しい公式を導き、利用する。	12
	11	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	指数の範囲を拡張し、計算ができる指数関数のグラフを理解する。	6
	12		第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	指数と対数の関係を理解し、対数の値が求められる。対数関数のグラフを理解する。桁数が求められる。	6
3 学期	1	第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数	微分係数や導関数の意味を理解し、求めることができる。	6
	2		第2節 導関数の応用 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式	曲線上の接線が求められる。関数の値の変化を調べ、3次関数のグラフがかける。最大値・最小値が求められる。方程式・不等式が解ける。	10
	3		第3節 7. 不定積分 8. 定積分 8. 面積	不定積分・定積分を理解する。定積分を利用して、曲線等で囲まれた面積を求めることができる。	8

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書＋αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学B	2単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数学B(数研出版) 補助教材 サクシード数学Ⅱ+B, チャート式基礎からの数学Ⅱ+B, スタディーサプリ	教科担当			

1 学習の目標

数学的な素養を広げるとともに、数学的な表現の工夫などを通して数学的に考える資質、能力を養う。

2 授業内容

“数列”, “統計的な推測” について, 高校1年生で学んだ知識を土台として, さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし, 「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また, サクシードやチャート式, スタディーサプリおよび大学入試問題も扱い, 教科書で学んだことの習熟を図り, 応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義, 用語, 定理, 公式を知ることを中心に教科書を読むとともに, 練習問題などに取り組むことを通して, 疑問点を明確にする。

復習 授業内容を定着させるために, サクシードや青チャートを用いて反復練習する。また, 理解を深めるために, サクシードや青チャートにある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく, 授業担当者に質問すること。

課題 提出課題(定期考査ごとのサクシードや長期休業期間ごとの青チャート)、黒板で問題を解く課題のいずれも, 他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

問題を数学的に考察して解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (34時間)	2学期 (36時間)	3学期 (時間)
-------	----	-------------	-------------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期	4 5	第1章 『数列』	第1節「数列とその和」 1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の記号 Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和	・数列の第 n 項を項数 n の関数として表すことができれば数列が定まることを理解する。 ・基本的な数列として等差数列と等比数列を取り上げ、一般項、また初項から第 n 項までの和を求められる。 ・和の記号 Σ を導入し、扱いができるようにする。	20
	6 7	第1章 『数列』	7. 漸化式と数列 8. 数学的帰納法	・数学的帰納法は、自然数に関する命題に対する重要な証明方法であることを理解し、証明法の練習をする。また他の証明法と比較して多面的に考察する力を養う。	14
2 学 期	9 10	第2章 『統計的な推測』	第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布 7. 正規分布	・確率変数という用語の意味を理解する。 ・確率変数の期待値(平均)・標準偏差について理解させ、それらの求め方を理解する。 ・反復試行における、特定の事象が起こる回数を表す確率変数の確率分布として、二項分布を取り上げる。 ・正規分布曲線の形と期待値、標準偏差との関係を理解した上で、変量が離散的な二項分布と連続的な正規分布について、二項分布が正規分布に近似できることを理解する。	20
	11	第2章 『統計的な推測』	第2節 統計的な推測 8. 母集団と標本 9. 標本平均とその分布 10. 推定 11. 仮説検定	・標本として、母集団の特徴をよく表すように取り出すことを考え、そのための取り出し方や標本の数について指導する。 ・標本平均の分布と母集団の特性値との関係を理解する。 ・仮説検定の意味を理解し、その手順をまとめる。	16
3 学 期					

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+ α の内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。高校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

復習の仕方として、参考例を3つ紹介します。

- ① サクシードA*と重要例題を中心に学習する。
- ② スタサブ(スタンダードコース)を視聴し、スタサブの問題を解く。
- ③ 青チャート🔊～🔊🔊🔊レベルを解き進める。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	精選数学C	2単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数学C(数研出版) 補助教材 サクシード数学C, チャート式基礎からの数学C, スタディーサプリ	教科担当			

1 学習の目標

数学的な素養を広げるとともに、数学的な表現の工夫などを通して数学的に考える資質、能力を養う。

2 授業内容

“数列”, “統計的な推測” について, 高校1年生で学んだ知識を土台として, さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし, 「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また, サクシードやチャート式, スタディーサプリおよび大学入試問題も扱い, 教科書で学んだことの習熟を図り, 応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義, 用語, 定理, 公式を知ることを中心に教科書を読むとともに, 練習問題などに取り組むことを通して, 疑問点を明確にする。

復習 授業内容を定着させるために, サクシードや青チャートを用いて反復練習する。また, 理解を深めるために, サクシードや青チャートにある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく, 授業担当者に質問すること。

課題 提出課題(定期考査ごとのサクシードや長期休業期間ごとの青チャート)、黒板で問題を解く課題のいずれも, 他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

問題を数学的に考察して解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (時間)	2学期 (時間)	3学期 (24時間)
-------	----	-----------	-----------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期					
2 学 期					
3 学 期	1	第1章 『平面上のベクトル』	第1節 平面上のベクトルとその演算 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式	・ベクトルを直感的に理解する。そして加法、減法についてまとめ、演算できるようにする。 ・ベクトルの成分表示を理解する。 ・ベクトルの内積は実数であり、ベクトルでないことに注意できるようにする。 ・ベクトルの図形への応用は、問題解決にとっても有効な手段であることを理解できるようにする。	16
	2	第2章 『空間のベクトル』	1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形	・空間図形を座標空間の中で扱ったり、空間ベクトルの成分の概念を理解する。点の座標や、2点間の距離公式について理解する。 ・平面上のベクトルの概念を拡張し、空間におけるベクトルに関しての所定着、演算法則を理解する。 ・空間ベクトルを用いて、種々の図形の性質が調べられるようにする。	

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。高校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

復習の仕方として、参考例を3つ紹介します。

- ① サクシードA*と重要例題を中心に学習する。
- ② スタサブ（スタンダードコース）を視聴し、スタサブの問題を解く。
- ③ 青チャート🕒～🕒🕒🕒レベルを解き進める。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	物理	3単位	選択必修修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高等学校 物理基礎 第一学習社 高等学校 物理 第一学習社 補助教材 第一学習社 セミナー物理基礎＋物理 河合出版 良問の風	教科担当			

1 学習の目標

自然科学の根幹をなす物理の考え方を学び、問題意識の持ち方、問題解決のためのアプローチの方法を科学史的な知見も踏まえ先人達の智慧から学んでいく。個々の分野において核心となる法則の理解を深めると同時に、複合的な問題に対しては、分野をまたいで学んだ法則を横断的に適応していける態度を養う。自然現象を数式を用いて定量的に考えることが出来るようにする。正確な計算力も養成する。将来に科学・技術方面に進んだ際に、学んだ知識・技能が活用できるようにする。

2 授業内容

1年次の物理基礎の内容の補足から始めて物理の内容へ移行する。

授業では予習と復習を前提としたうえで、教科書内容の詳説を行い、「例題」と「類題」及び「TRY」の学習によって理解を深める。節末問題を重視した「教科書の徹底理解」を図る。また、適宜オリジナルな問題や大学入試問題も加味し、生徒との質疑応答を織り交ぜて、基礎の徹底と応用力の習得を図る。

問題集セミナーは、毎回の授業の後に内容の定着を図ることを目標に活用させ、問題集「良問の風」は各自の学力に応じて、適宜使用するとともに、長期休業などで集中的に取り組ませる。

3 学習方法

予習 次回の学習内容について目を通して、概念の把握、定義、用語、法則を知ることを中心にするとともに、理解できないところや疑問点を明確にして授業に臨むようにする。

復習 授業内容を定着させるために、出来るだけ早く問題集の基礎から標準の問題を解いて、学力を定着させる。授業を受けても理解できない、不明な点は放置せずに友人からの協力で解決を図ったり、授業担当者に質問すること。

課題 授業中に投げかける問題提起に関しては、自ら解決を図ること。練習プリントを活用して実力を付ける、定期考査の解き直しは、理解の徹底に努めて同じ誤りを繰り返さないようにする。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

現代の科学技術社会を読み解くことが出来る科学的知識・科学的リテラシーの養成

【思考力・判断力・表現力等】

現代の科学技術社会を支える人材の育成と諸問題の科学的な解決力

【主体的に学習に取り組む態度】

知的好奇心の涵養、他者との協働的態度

5 年間予定授業時間

予定時間数	105時間	1学期 (30 時間)	2学期 (45 時間)	3学期 (30 時間)
-------	-------	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学 期	4	第Ⅲ章 波動	1. 閉管の振動	- 定常波の形が描けて、そこから波長、振動数が導けること。 - 斜面上への斜方投射の扱い方 - モンキーハンティングの考察 - 静止摩擦力を、μN としないこと。$N=Mg$ が常に正しいわけではない。特に重ねた2物体間の摩擦力の方向の理解。動摩擦力を含めた運動方程式を立て、求めた加速度を使えること。 - アルキメデスの原理の理解。浮力は上下の圧力差に起因すること。 - 力学的エネルギー保存則の理解。 - 非保存力のする仕事。エネルギーの原理。	5
	5	第2節 音波	2. 開管の振動 3. 共振 共鳴		
	6	第Ⅰ章運動とエネルギー 第Ⅰ節 放物運動	1. 斜方投射 2. 空気抵抗のある運動		
	7	第Ⅰ章運動とエネルギー 第2節摩擦力 液体や気体から受ける力 第3節 仕事と力学的エネルギー	1. 静止摩擦力 2. 動摩擦力 1. 圧力 2. 液体中における圧力 3. 浮力 4. 空気抵抗と終端速度 1. 仕事と仕事率 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギー		10 15
2 学 期	8	第Ⅰ章第2節	1. 重心	- 重心は質量中心であること。 - 回転中心の合理的な取り方。 - ベクトル量としての運動量。 - 運動量保存をベクトル図で理解。 - 外力がはたらかない方向のみで運動量は保存すること。 - 運動量が保存する2物体の重心は等速度運動すること。 - 気体分子運動論の理解 - 温度、内部エネルギーの熱力学的理解、力学との関連性。 - 正弦波の式を $y-x$ 図、$y-t$ 図から導けること。 - 音波の干渉の応用的理解 - 斜めドップラー効果	9
	9	剛体の重心とつりあい	2. 剛体のつり合いと転倒		
	10	第3節 運動量の保存	1. 運動量 2. 運動量の変化と力積 3. 運動量保存の法則 4. 反発係数		
	11 12	第5節 気体の性質と分子運動 第Ⅱ章波動 第1節正弦波	1. 気体の性質 2. 気体の分子運動 3. 気体の内部エネルギーと仕事 1. 正弦波の式と位相 2. 波の干渉 3. ドップラー効果		15 12 9
3 学 期	1	第Ⅲ章 電気と抵抗	1. 合成抵抗	- 電位の考え方を基にした電気現象の理解。 - キルヒホッフの法則の習熟。 - 直流回路の理解	30
	2	第2節 電流	2. 電流計と電圧計 3. 電池の起電力と内部抵抗		
	3		4. キルヒホッフの法則 5. 未知抵抗の測定 6. 電池の起電力の測定 7. 非直線抵抗 8. コンデンサーを含む回路		

7 学習者へのメッセージなど

常に何が起きているかの現象に興味を持つこと。数式に意味があり、数式を和訳できること。数学と異なる発想法を理解すること。自然現象が数式を用いて説明出来たり、予言できることに感動すること。驚きがない学習には興味もわかず上達しない。面白がってください。

実力は教科書の完全理解に始まり、授業で学んだことを間髪入れずに問題集で基礎を定着させることで

養成される。この地道な作業の繰り返しを継続すること。疑問点は放置せず質問する等で解決すること。理解できない問題は、頭の片隅の置き続けることで思わず解決することがある。安直に分かったふりをせずこだわり続けること。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	化学基礎	2単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・化基 703 「化学基礎 academia」 実教出版 補助教材 ・2024 セミナー化学基礎+化学 第一学習社 ・大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎 数研出版	教科担当			

1 学習の目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 授業内容

化学の概念を学び、人間生活との関わりを理解してこれからの化学の役割について考察する。 物質の構成について理解する。元素の周期性、原子、イオン、分子について理解する。化学結合の種類と特徴について理解する。物質の概念を理解し、化学反応式を習得する。酸と塩基、塩、pHを理解する。酸化還元反応の概念を理解し、酸化剤還元剤について理解する。酸化還元的应用である電池電気分解について理解する。

3 学習方法

予習 教科書を読む。実験プリントを事前に読み、疑問点を明確にする。 復習 授業内容を定着させるために、教科書の練習問題とセミナー化学に取り組んで定期考査に取り組む。受験に対応できる実力をつけるために大学入試共通テスト対策に取り組む。 課題 実験プリントを完成させて提出する。宿題の提出と小テストに取り組む。定期考査で規定の点数がとれない場合には追試に取り組み、合格点を取る。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
--

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (34 時間)	2 学期 (36 時間)	3 学期 (時間)
-------	-------	--------------	--------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	化学と人間生活 1 章 物質の構成	生活の中の化学—材料としての物質と人間生活の関わり— 化学とその役割—機能物質としての物質と人間生活の関わり— 1 節 物質の探究	生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲をもつ。物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。	9

	5		2 節 物質の構成粒子	構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	
		2 章 物質と化学結合	1 節 イオン結合 2 節 共有結合と分子間力 3 節 金属結合 4 節 化学結合と物質	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができていることを理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。 具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	12
	6	3 章 物質の変化	1 節 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項を理解する。 物質質量と溶液の濃度の関係を理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	13
	7		2 節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。	
	8 9		2 節 酸と塩基	酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	10
2 学期	10		3 節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。酸化剤と還元剤の反応を理解する。 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解する。	10
	11		電池，電気分解	実用電池や電気分解，金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。	12
	12	終章 化学が拓く未来	日常生活と化学	日常生活や社会において、さまざまな科学技術に支えられていることを理解している。	4
3 学期		精選化学			

7 学習者へのメッセージなど

私たちはたくさんの物質に囲まれている。全部の性質を理解することはできないが、分類し一部を理解し、科学的ものの見方考え方を習得すると想像力によってたくさんの物質を理解することができる。化学はセントラルサイエンスと呼ばれ、人間が安全快適に生活する上で必須の学問である。

実験授業に熱心に取り組み、教科書の練習問題、セミナーの問題演習を必ず行ってください。学校指示の問題集をすべて行えば、入試問題に対応できます。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	精選化学	1 単位	学校必履修	学年	2 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・化学 academia 実教出版 補助教材 ・2024 セミナー化学基礎+化学第一学習社 ・レッツトライノート化学 Vol.3 無機物質 東京書籍	教科担当			

1 学習の目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成することを目指す。(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。(2) 観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。(3) 化学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 授業内容

エンタルピーとエントロピーについて理解する。元素の周期表で俯瞰的に無機単体を理解する。18 族, 17 族, 16 族, 15 族, 14 族の非金属単体の性質を学び、その化合物の特徴について学ぶ。金属については典型金属 1 族, 2 族, 両性金属, 遷移金属単体の性質とその化合物の特徴について学ぶ。身近な物質についてその性質と利用について理解する。

3 学習方法

予習 教科書を読む。実験プリントを事前に読み、疑問点を明確にする。

復習 教科書の練習問題やセミナーの問題を解いて考査に望む。

課題 実験プリントの完成と提出、宿題の提出と小テストの合格

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力等】

化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (時間)	2 学期 (時間)	3 学期 (35 時間)
-------	-------	------------	------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	化学基礎			
	5				
	6	化学基礎			
	7				
2 学	8	化学基礎			
	9				

期	10 11 12	化学基礎			
3 学 期	1	第2章 物質の変化と平衡 第3章 無機物質	1節 化学反応と熱・光エネルギー 1節 元素と周期表	化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差であることを理解する。 非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連させ理解する。	14
	2		2節 非金属元素 3節 典型金属元素	非金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。	14
	3		4節 遷移元素	遷移金属の単体と化合物の性質や反応について理解する。	7

7 学習者へのメッセージなど

反応熱については、外界からの視点と系の視点をきちんと区別することで理解が進む。外界からの視点は実験観察される発熱，吸熱である。系の視点は化学物質の持つエンタルピーの変化である。事象を理解した上で、問題を解くことで理解することができる。無機化学は実験観察をもとに考察して化学反応式を書く。また、酸化還元の見点を持ち分類することで理解が進む。

実験授業に熱心に取り組み、教科書の練習問題，セミナーの問題演習を必ず行ってください。学校指示の問題集をすべて行えば、難関大入試問題に対応できます。3年の夏期講習では無機の入試問題を違う視点でまとめて解説します。ぜひ利用してください。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	生物基礎	2単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・啓林館 高等学校 生物基礎 補助教材 ・リードα生物基礎 数研出版 ・スクエア最新図説生物 第一学習社	教科担当			

1 学習の目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高める。理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てる。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する

2 授業内容

生物の多様性と共通性について探究を通して、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞の構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。生物と遺伝子について探究を通して、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。生物の体内環境の維持について探究を通して、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。生物の多様性と生態系について探究を通して、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。

3 学習方法

予習 教科書を読み、学習の目標を明確にする。
復習 教科書を読み、学習プリントの内容を定着させる。問題集リードα生物基礎に取り組む。
課題 まとめプリントを完成させて提出する。探究活動などの課題に取り組む。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている

【思考力・判断力・表現力等】

生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。

【主体的に学習に取り組む態度】

生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (27 時間)	2学期 (28 時間)	3学期 (15 時間)
-------	----	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1部 生物 の特徴 第1章 生物 の特徴	第1節 生物の共通性と多様性	・現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。 ・単細胞生物と多細胞生物の機能における共通性と多細胞生物の体の成り立ちがわかる。	2
	5	第1章 生物 の特徴	第2節 生物とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーとATPについてわかる。 ・ATPと代謝についてわかる。	7
	6	第1章 生物 の特徴	第2節 生物とエネルギー	・光合成により光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸により有機物からエネルギーが取り出されることがわかる。	4
	7	第2部 遺伝 子とその働き 第2章 遺伝子とその 働き	第1節 遺伝情報とDNA	・DNAが塩基の相補性に依存して二重らせん構造をもち、塩基の配列が遺伝情報となることがわかる。 ・体細胞分裂の分裂前に母細胞のDNAと同じ塩基配列のDNAが作られることがわかる。 ・細胞周期の間期（G1, S, G2期）と分裂期におけるDNA量の変化がわかる。	5
2 学期	8 9	第2章 遺伝子とその 働き	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの塩基配列の情報がタンパク質のアミノ酸配列の情報になることがわかる。 ・転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れがわかる。タンパク質が酵素として働くことで、生命現象を支えていることがわかる。 ・すべての遺伝子が常に発現しているわけではなく、個体の部位に応じて発現している遺伝子が異なることがわかる。	7
	10	第3部 神経 系と内分泌系 による調節	第1節 情報の伝達	・生物の体内環境が一定に保たれていること、体内環境とは体液の環境であることがわかる。 ・自律神経系によって心拍数が適切に保たれていることがわかる。	5
	11		第2節 体内環境の維持のしくみ 第2節 体内環境の維持のしくみ	・体内環境がホルモンにより調節されていることがわかる。 ・体内環境は自律神経やホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることがわかる。 ・体温調節は交感神経や、ホルモンの作用により保たれていることがわかる。 ・体液濃度が高い場合、水分調節はバソプレシンや、鉱質コルチコイド	5

				の作用により水が再吸収されることがわかる。	
	12	第4章 免疫	第1節 免疫の働き	・病原菌などの異物を認識，排除して体内環境を守るしくみがわかる。 ・非特異的な自然免疫の反応がわかる。 ・体液性免疫と細胞性免疫のそれぞれのしくみがわかる。 ・免疫が実際の病気とどのように関わっているのかがわかる。	5
3 学 期	1	第4部 生物の多様性と生態系 第5章 植生と遷移	第1節 植生と遷移	・多様な植生が成立する要因には植物の環境への適応が関わっている。 ・陸上の植生が移り変わっていくこととその要因がわかる。 ・気温と降水量の違いによって，地球上ではさまざまなバイオームが成立していることがわかる。 ・日本のバイオームの特徴がわかる	4
	2	第6章 生態系とその保全	第1節 生態系と生物の多様性	・生態系の成り立ちがわかる。 ・キーストーン種と間接効果について理解している。	4
	3	第6章 生態系とその保全	第2節 生態系のバランスと保全	・生態系のバランスについて理解する。 ・生物多様性の保全の重要性がわかる。	4

7 学習者へのメッセージなど

生物基礎の学習を通して，科学的に探究する力を身につけていこう。生物についての気付きから，課題を設定し解決しようとする気持ちが大切です。生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身につけよう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	生物	3単位	選択必修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・啓林館 高等学校 生物 補助教材 ・リードα生物基礎 数研出版 ・スクエア最新図説生物 第一学習社	教科担当			

1 学習の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身につけるようにする。(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 授業内容

生物の進化について、有性生殖と遺伝的多様性、進化の仕組み、生物の系統等の観点から理解を深める。生命現象と物質について、タンパク質等の生命に関する物質や代謝等の観点から理解を深める。遺伝情報の発現と発生について、DNA等の遺伝に関する物質や発生、バイオテクノロジー等の観点から理解を深める。生物の環境応答について、刺激の受容と反応や動物の行動、植物の環境応答等の観点から理解を深める。生態と環境について、個体群と生物群集、生態系等の観点から理解を深める。

3 学習方法

予習 教科書を読み、学習の目標を明確にする。
復習 教科書を読み、学習プリントの内容を定着させる。問題集リードα生物に取り組む。
課題 探究活動などの課題に取り組む。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
【思考力・判断力・表現力等】
 観察、実験などを行い、生物学的に探究する力を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】
 生物学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期（41時間）	2学期（38時間）	3学期（26時間）
-------	----	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1部 生物の進化	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源 第2節 生物界の変遷と地球環境の変化	○生命の起源と生命の変遷がわかる。 ○無機物から有機物が生成され、生物の誕生となる化学進化や、生命の起源を考えることができる。 ○生命の起源と生物進化の道筋について学び、生物進化がどのように起こってきたのかを調べようとする。	10
	5	第1部 生物の進化	第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ	○無性生殖と比較して減数分裂の意義と受精の意義がわかる。 ○遺伝する形質のもとになる要素の遺伝子と染色体がわかる。遺伝子が独立の場合と、連鎖の場合、組換えが起こる場合とに分けて理解ができる。	11
	6	第1部 生物の進化	第3章 進化の仕組み 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因	○進化を裏づける証拠がわかる。 ○生物の変異と進化、自然選択によるそのしくみがわかる。 ○遺伝的変異と、遺伝子重複の関係がわかる。 ○生殖的隔離と種分化の関係がわかる。	11
	7	第1部 生物の進化	第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統 第2節 3ドメイン説 第3節 細菌ドメイン 第4節 アーキアドメイン 第5節 真核生物ドメイン 第6節 人類の起源と進化	○生物の分類と系統の規準がわかる。 ○分析技術の進展に伴う規準によって分類が変わることを理解する。 ○原核生物の細菌の特徴がわかる。 ○原核生物のアーキアの特徴がわかる。 ○原生生物・植物・菌・動物のそれぞれの分類と系統がわかる。 ○人類の起源と進化がわかる。	9
2 学期	8	第2部 生命現象と物質	第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞 第2節 生命現象とタンパク質	○生物体を構成する有機物や無機物、細胞との関係がわかる。 ○タンパク質の構造や生命現象におけるタンパク質の役割がわかる。	9
	9	第2部 生命現象と物質	第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸 第3節 光合成	○呼吸によって有機物からエネルギーがつけられるしくみや、発酵の反応との共通点を理解する。解糖系やクエン酸回路および電子伝達系について考えることができる。 ○水の分解に関係する反応系（光化学系Ⅱ）、NADP ⁺ の還元に関係する反応系（光化学系Ⅰ）およびカルビン回路、光合成をする細菌や化学合成細菌について考えることができる。	10
	11	第3部 遺伝情報の発現と発生	第7章 遺伝現象と物質 第1節 遺伝情報の複製 第2節 遺伝子の発現	○遺伝情報の複製のしくみがわかる。 ○原核生物と真核生物との遺伝子の発現について理解する。 ○原核生物と真核生物との遺伝子の発現調節のちがいがわかる	10
	12	第3部 遺伝情報の発現と発生	第8章 発生と遺伝子の発現 第1節 動物の配偶子形成と受精	○動物の配偶子形成と受精のしくみがわかる。 ○配偶子（精原細胞・卵原細胞）形成と受精の過程について考えることができる。	9
3 学期	1	第3部 遺伝情報の発現と発生	第2節 初期発生の過程 第3節 発生と遺伝子の発現	○発生初期の細胞分裂である卵割から器官分化の始まりまでの過程について考えることができる。 ○細胞の分化と形態形成のしくみを考えることができる。また、特定の器官への分化を促す働きである誘導、そのような働きをする部分である形成体について	9

				て考えることができる。	
2	第3部 遺伝情報の発 現と発生	第9章 バイオテクノロジー 第1節 遺伝子を扱った技術	○生物を利用する技術であるバイオテ クノロジーがわかる。	9	
3	第3部 遺伝情報の発 現と発生	第9章 バイオテクノロジー 第1節 遺伝子を扱った技術	○遺伝子を扱った技術について、その原 理と有用性について考察し、ある特定の DNA の配列を切断する酵素の制限酵素、 特定の遺伝子を組み込んで生物内で増 殖させるベクター、特定の DNA 領域を多 量に増幅する方法（PCR 法）など遺伝子 を扱った技術について考えることがで きる。	8	

7 学習者へのメッセージなど

生物の学習を通して、生物基礎で身につけた科学的に探究する力を更に発展させていきましょう。学習を通して課題を発見し、解決しようとする気持ちが大切です。生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけよう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	体育	単位	3単位	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健 体育 補助教材	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

1年生の時に学んだ種目や2年次に初めて学ぶ種目も含めて、幅広くいろいろな種目を学ぶ。1年生の時に学んだ種目についてはより高度な技術に挑戦する。

3 学習方法

予習 生活の中で、種目の特性について、事前に学習をする。

復習 種目終了時にまとめをおこない、学習の振り返りを行う。

課題 日常の生活の中で健康に留意し、行った種目に関心を持つ。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105時間	1学期(39時間)	2学期(42時間)	3学期(24時間)
-------	-------	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		体づくり運動 〈男女共通〉	〈体づくり運動〉 ・体ほぐしの運動・体の動きを高める運動・効率の良い組み合わせの実践・バランスのよい組み合わせの実践	身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、仲間と自主的にかかわりを持ちながら取り組むことができる。	39
		球技;ネット型 〈男女共通〉	〈バレーボール〉 ・パス練習・サーブ練習・サーブレシーブ・ラリー・スパイクや三段攻撃・ゲーム	状況に応じたボール操作や連携した動きによって攻防ができるようにする。	
		球技;ベースボール型 〈男女共通〉	〈ソフトボール〉 ・バット操作・攻撃にかかわるボールを持たないときの動き	状況に応じたボールやバットの操作と状況に応じ、味方と連携した守備などによって攻防を展開できるようにする。	
		武道: 柔道・剣道 〈男子:選択〉	〈柔道〉 ・後ろ受け身・横受け身・基本動作・寝技(袈裟固め、横四方固め)	基本動作を習得し、抑え込みの状態を学習し、寝技での攻防が展開できるようにする。	
			〈剣道〉 ・基本の動き・剣道衣、袴の着方、畳み方・素振り	礼節を大切にし、様々な素振りの種類に応じた動きができるようにする。	
		ダンス: 〈女子〉	〈基礎・現代的なリズムのダンス〉 ・ステップや体の動かし方 ・現代的リズムのダンス	リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応し踊ることが出来る。	
		体育理論 (男女共通)	〈体育理論〉 ・スポーツの発祥と成立	スポーツから得られる恩恵を知る。	
2 学期		計測測定型 (男女共通)	〈水泳〉 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ ・息継ぎ・フォーム・リレー・測定	4つの泳法を身につけ、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることが出来るようにする。	42
		球技;ネット型 〈男女共通〉	〈テニス〉 ・サービス・ラリー・ボレー・スマッシュ・ゲーム	状況に応じたボール操作や用具の操作を行い、自分あるいは連携した動きによって相手コート空間を作り、攻防ができるようにする。	
		球技;ネット型 〈女子〉	〈バドミントン〉 ・サービス・ストローク・ラリー・ゲーム	状況に応じたシャトル操作や用具の操作を行い、自分あるいは連携した動きによって相手コート空間を作り、攻防ができるようにする。	
		球技;ゴール型 〈男子〉	〈サッカー〉 ・ボールコントロール・キック・パス、トラッピング・ドリブル・シュート・ゲーム	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きを理解して、攻防ができるようにする。	
		武道: 柔道・剣道 〈男子〉	〈柔道〉 ・後受身・横受身・前回受身 ・手技・腰技・足技	相手とのわざの練習を通じてお互いに投げ合うことで、受身を安全にとれるようにする。 ・安全に注意して活動に取り組むことができる。	
			〈剣道〉 ・防具のつけ方・基本打ち(面、籠手、胴)・応じ技・地稽古	相手を尊重し、礼節を重んじるとともに、刃筋正しく一本になる打突をすることが出来る。	

		ダンス： 〈女子〉	〈創作ダンス〉 ・創作ダンスの振りづくり	作品作りや練習、発表などの話し合いの場面で、仲間を尊重し、発言したり同意を示したりして合意形成に貢献できるようになる。	
		体育理論 (男女共通)	・スポーツ文化の発展と現代社会 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会	・スポーツについての課題の双方から多角的に思考し判断できるようになる。	
3 学 期		陸上競技 (男女共通)	〈持久走〉 ・ランニングフォーム・ペース走・測定	自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。	24
		球技：ゴール型 (女子)	〈サッカー〉 ・ボールコントロール・キック・パス、トラッピング・ドリブル・シュート・ゲーム	基本的なボール操作を身に着ける。状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きを理解する。	
		球技：ゴール型 (男子)	〈バスケットボール〉 ・ボールコントロール・ドリブル・シュート・ゲーム	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きを理解して、攻防ができるようになる。	
		武道： 柔道・剣道 〈男子〉	〈柔道〉 ・立ち技、寝技の練習、乱取、試合	身につけた技能を用いて、安全に注意しながら乱取りや試合を楽しむことができる。	
			〈剣道〉 ・応じ技・地稽古（試合）	相手に応じた技を選択し、一本の基準を満たす打突を応じ技でもすることが出来る。	
		ダンス： 〈女子〉	〈創作ダンス〉 ダンス発表会に向けた練習、発表	表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で対極の動きや空間の使い方に変化をつけて、イメージを強調した作品にまとめることができる。	
		体育理論 (男女共通)	・スポーツの経済効果とスポーツ産業 ・スポーツに求められる高潔さ	個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	

7 学習者へのメッセージなど

日常生活の中でスポーツをやってみることや見てみることに興味を持ち、スポーツをする人を応援しスポーツに関わることをいろいろ調べてみるできるようになりましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	保健	1 単位	必履修	学年	2 年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 大修館 (保体 702) 新高等保健体育 副教材 大修館 (保体 702) 図説新高等保健	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

環境衛生、食品の安全、保健・医療制度や保健・医療機関、医薬品の活用について学び、健康を支える環境づくりや社会参加、適切な情報活用など、自他の健康を保持・増進する方法について理解を深める。また、班に分かれて班別研究を行い、研究内容について資料作成・発表を行い、他者と協力して課題に取り組む姿勢を身につける。

3 学習方法

予習 事前に教科書の【学習のねらい】を読み、教科書の内容や図説を確認して疑問点を明確にする。
復習 次の授業の冒頭で前回の授業内容の確認と振り返り課題として teams で提出し学習の定着を図る。
課題 授業の内容理解を深めるため、授業時にタブレットを利用して調べ学習を行い、teams で課題を提出する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】
 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに目的や状況に応じて他者に伝えている。
【主体的に学習に取り組む態度】
 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
-------	-------	---------------	---------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	時数
1 学期	4	健康を支える環境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康	13
	5		・大気汚染の汚染源と汚染物質、それによる健康被害、水質汚濁・土壌汚染の実態とそれらの対策について理解している。 ・健大気汚染と水質汚濁・土壌汚染と健康について課題を発見し、健康や環境に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し、表現している。 ・健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
	6		健康被害を防ぐための環境対策	

	7		環境衛生に関わる活動	- 健康被害を防ぐための環境対策、環境衛生に関わる活動について課題を発見し、健康や環境に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し、それらを表現している。 - 健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
			食品の安全性と健康 食品の安全性を確保する取り組み	- 食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて理解している。 - 食品の安全性と健康、食品の安全性を確保する取り組みについて課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している。 - 健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
2 学期	9	健康を支える環境づくり	保険制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品の制度とその活用	- 保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用を理解している。 - 保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用について課題を発見し、その原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している。 - 保険制度、医療制度、医薬品の制度の活用の学習に主体的に取り組もうとしている。	14
	10		様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	- 様々な保健活動や対策誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくりについて理解している。 - 様々な保健活動や対策誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくりについて課題を発見し、その原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断し表現している。 - 健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	
	11				
	12		保健研究発表	- 自分の身の回りに存在する保健に関する問題や事柄について理解している。 - 保健研究発表やテーマについて課題を発見し、その解決方法を思考し判断し表現している。 - 保健研究発表に主体的に取り組もうとしている。	
3 学期			保健研究発表	- 自分の身の回りに存在する保健に関する問題や事柄について理解している。 - 保健研究発表やテーマについて課題を発見し、その解決方法を思考し判断し表現している。 - 保健研究発表に主体的に取り組もうとしている。	8

7 学習者へのメッセージなど

私たちを取り巻く自然環境や社会環境には様々な課題があります。その課題に対して自ら気づき、情報を収集・分析することや他者の意見交換も参考に課題を明確にします。そのため、様々な手段・方法を活用して解決策見つけていく能力を身につけていくことが必要になります。授業を通して、自他の健康や社会の健康の保持・増進するためには、自然環境や社会環境の整備と個人の取り組みを、どのように関連付けることが有効であるか考えましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	英語コミュニケーションⅡ	4単位	学校必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	検定教科書：啓林館 ELEMENT 啓林館 ELEMENT ワークブック エミル出版 Cutting Edge Green, Blue ラーンズ Division 1～3 ラーンズ 英語リーディング2 Z会 英文速読ドリル Level 2 Z会 共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes 旺文社 Target1900 リクルート スタディーサプリー English 美誠社 Animal Farm Oxford 出版 Nelson Mandela Oxford 出版 Chemical Secret Oxford 出版 A Christmas Carol Oxford 出版 Gulliver's Travels エミル出版 News Breaks Standard	教科担当			

1 学習の目標

高度な高校英語を達成するため、多様なテーマの英文に触れ、文の構成、内容について理解を深めるとともに、重要な文法項目を確認し、語彙力を伸ばす。速く正確に英文を読み取る力やリスニング力、スピーキング力、ライティング力を養う。

2 授業内容

週1回程度、英単語集『Target1900』の小テストを実施し、英単語・熟語の定着を図り、検定教科書『ELEMENT』や補助教材『Cutting Edge』を読んで、現代の多様かつグローバルな問題について知識を獲得し、理解していくと共に、大学入試問題に対応出来る基礎的読解力を身に付ける。速読教材『英文速読ドリル』(週2レッスン)を使用し、短い時間に一定の量の長文を読んで、情報を整理しながら把握する速読力を身に付ける。すべての教材に付属する音声を使用し、リスニング力を強化する。9月以降、『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』を週2回程度使用し、共通テスト「リーディング」を中心とした対策を行う。

3 学習方法

予習 新出単語・熟語を調べ、教科書を声に出して読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。

復習 授業内容を定着させるために、ノートや Navi-Book、各種副教材を用いて、特に理解が難しかった箇所を振り返り、反復練習する。小テストの振り返りをする。

課題 英語4技能検定試験の対策として、スタディーサプリー English を少なくとも週2レッスンを提出する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【聞くこと】
日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

【読むこと】
日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

【話すこと(やりとり)】
日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

【話すこと(発表)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

【知識・技能】

言語活動を通して、外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。

【思考力・判断力・表現力等】場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。【主体的に学習に取り組む態度】他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期 (3 9 時間)	2 学期 (4 2 時間)	3 学期 (2 4 時間)
-------	--------	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 5 6 7	検定教科書 ELEMENT L1～4 Cutting Edge Green 8～9 英文速読ドリル 15～25	週 1 回 程度、英単語集『Target1900』の小テストを実施し、英単語・熟語の定着を図り、検定教科書『ELEMENT』や補助教材『Cutting Edge』を読んでも、現代の多様かつグローバルな問題について知識を獲得し、理解していくと共に、大学入試問題に対応出来る基礎的読解力を身に付ける。速読教材『英文速読ドリル』(週 2 レッスン)を使用し、短い時間に一定量の長文を読んで、情報を整理しながら把握する速読力を身に付ける。すべての教材に付属する音声を使用し、リスニング力を強化する。9 月以降、『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』を週 2 回程度使用し、共通テスト「リーディング」を中心とした対策を行う。	【聞くこと】日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、	39

				支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。 【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。	
2 学 期	8 9 10 11 12	検定教科書 ELEMENT L5～8 Cutting Edge Green 10～18 英語リーディング 1～10 スタサブ English 週 2 レッスン目安	週 1 回程度、英単語集『Target1900』の小テストを実施し、英単語・熟語の定着を図り、検定教科書『ELEMENT』や補助教材『Cutting Edge』を読んでも、現代の多様かつグローバルな問題について知識を獲得し、理解していくと共に、大学入試問題に対応出来る基礎的読解力を身に付ける。速読教材『英文速読ドリル』(週 2 レッスン)を使用し、短い時間に一定の量の長文を読んで、情報を整理しながら把握する速読力を身に付ける。すべての教材に付属する音声を使用し、リスニング力を強化する。9 月以降、『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』を週 2 回程度使用し、共通テスト「リーディング」を中心とした対策を行う。	【聞くこと】日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多	42

				様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。 【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。	
3 学 期	1 2 3	Cutting Edge Blue 1～8 英語リーディング 11～20 スタサブ English 週 2 レッスン目	週 1 回程度、英単語集『Target1900』の小テストを実施し、英単語・熟語の定着を図り、補助教材『Cutting Edge』を読んで、現代の多様かつグローバルな問題について知識を獲得し、理解していくと共に、大学入試問題に対応出来る基礎的読解力を身に付ける。速読教材『英文速読ドリル』(週 2 レッスン)を使用し、短い時間に一定の量の長文を読んで、情報を整理しながら把握する速読力を身に付ける。すべての教材に付属する音声を使用し、リスニング力を強化する。9 月以降、『共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes』を週 2 回程度使用し、共通テスト「リーディング」を中心とした対策を行う。	【聞くこと】日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。 【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句	24

				や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。	
--	--	--	--	--	--

7 学習者へのメッセージなど

英語の実力をつけるために最も大切なことは、とにかく毎日何らかの形で英語に触れることです。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能をしっかりと鍛えることも重要です。教科書は何度も音読し、英文を頭に入れてください。ターゲット等の基礎基本を徹底的に定着させ、速読力やリスニング力強化のために、音読を毎日必ず行ってください。また、英語は言語学習なので、積み重ねの教科です。日々の授業で学んだ内容を確実に定着させるために、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	論理・表現Ⅱ	2 単位	学校必修修	学年	2
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 啓林館 Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace 補助教材 数研出版 Steady Step Writing 数研出版 Write to the Point Write to the Point ExerciseB 学習ノート 開隆堂 Listening Essentials 2.5 数研出版 Listening Laboratory Standard β いいずな書店 Vintage 4 th Edition いいずな書店 Vintage Drive 美誠社 英語の構文 80 スマコレ Advanced いいずな書店 新演習 英文法・語法 750	教科担当			

1 学習の目標

英語による4技能の言語活動を通して、情報や考えを的確に理解し、表現する能力を育成する。目的や場面、状況などに応じて適切に知識を活用出来る技能を身につけるようにする。主体的、自立的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 授業内容

重要な文法項目を確認し、英作文をする。
ALTの授業で学んだ内容を元にライティングとディベートをする。

3 学習方法

予習 テキストを使い付属の問題を事前に解く。小テストの範囲を事前に予習する。
復習 学んだ内容を元に再度作文が出来るか試す。
課題 スマコレの提出、文法ワークブックの提出

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【聞くこと】
日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

【話すこと(やりとり)】
日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

【話すこと(ディベート)】
日常のおよび社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

【書くこと】
日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、情報や考え、を複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

【知識・技能】
言語活動を通して、外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。

【思考力・判断力・表現力等】
場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1 学期 (28 時間)	2 学期 (32 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	----	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	VQL1～2 SSWL1～L5 スマコレ L1 ビンテージ 1-154	時制、助動詞 ドローンによる問題解決	【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。 【聞くこと】日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(ディベート)】日常のおよび社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。	28
	5	リスニングラボ 1-4			
	6	VQL3～L4 SSWL6～10 スマコレ L2 ビンテージ 155-373	仮定、態 日本の水産資源		
	7	リスニングラボ 5-10			
2 学期	9	VQL5～L7 SSWL11～15 スマコレ L5 ビンテージ 431-671	分詞、関係詞、比較、否定 日本の子育て	【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。 【聞くこと】日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。	32
	10	リスニングラボ 11-20			
	11	VQL8～L10 WTPL1～4 スマコレ L6 ビンテージ 672-847	主語の決定、目的の表現、理由の表現 地方の医師不足		
	12	リスニング 2.5 1-4			

				する。 【話すこと(ディベート)】日常のおよび社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。	
3 学 期	1	VQL11～L12 WTPL5～8 スマコレ L9～10 ビンテージ 896- 1323	時制、関係代名詞、関係副詞 女性管理職、地域活性化	【書くこと】日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。 【聞くこと】日常の話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(ディベート)】日常のおよび社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。	16
	2	リスニング 2.5 5- 8			
	3				

7 学習者へのメッセージなど

英語は積み重ねが大事な教科です。少しでも良いので毎日英語に触れましょう。また日本語と英語は全く異なる言語です。言語の違いを認識し、自分の考えを的確に他の言語で表現するにはどうしたらよいか、十分に思考した予習をして下さい。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	家庭基礎	2単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 実教出版 家庭基礎 気づく力築く未来 補助教材 実教出版 生活学 Navi 資料+成分表 2024 実教出版 家庭科 ICT 教材集 (動画・シミュレーションアプリ)	教科担当			

1 学習の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 授業内容

自分・家族、子ども、高齢者、社会福祉、食生活、衣生活、住生活、消費・経済分野について、小中学校での知識や技術を土台として、さらに深く学ぶ。

授業では生徒の主体的な学びを重視し、グループワークや体験学習を多く取り入れることによって、深い理解と知識や技術の定着を図る。また、補助教材である資料集でより深く学び、住設計や家計のシミュレーションなど ICT 教材を活用して実践的に学ぶことで、将来に生かすことができる知識や技術を身に付ける。

3 学習方法

予習 教科書の内容を読むことで学びの見通しを持つ。

復習 授業プリントやスライドを見直すことで知識の定着を図る。また、授業で身に付けた知識や技術を生活の中で生かし、自分の手で自分の生活をより豊かにすることを目指す。

課題 毎回ではないが、授業プリントのまとめや振り返りを提出する。また、単元まとめ確認テストのための復習を行う。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力等】

生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1章 『これからの 人生について 考えてみよう』	第1節 自分の未来予想図を描こう ～生涯発達と発達課題～ 第2節 これからの人生をデザイン する	自分自身の将来について考える ワークシートを活用し、自分や人の 一生についての考えをまとめるこ とができる。 現在の自分のこと、将来の生活設 計を考えることについて、意欲を持 って取り組むことができる。	2
	5	第2章 『自分らしい 生き方と家族』 第4章 『高齢者と関 わる』 第5章 『社会とかか わる』	第1節 自立と共生 第2節 ライフキャリア 第3節 共に生きる家族 第4節 家族に関する法律 第1節 高齢社会に生きる 第2節 高齢者を知る 第3節 高齢者の自立を支える 第4節 高齢社会を支えるしくみ 第1節 支えあって生きる 第2節 共生社会を生きる	それぞれの内容について、グルー プで調べ学習を行い、スライドにま とめ発表することで、調べたことを わかりやすくまとめる力・学んだこ とを相手にわかりやすく伝え表現 する力を身に付ける。 最新の情報を知り、社会環境の変 化や課題、家族・家庭と社会との関 わりについて理解することができる。	8
	6	第3章 『子どもとか かわる』	第1節 子どもとは 第2節 子どもの発達 第3節 子どもの生活 第4節 子どもをはぐくむ 第5節 子どものための社会福祉	乳幼児の心身の発達と生活、親の 役割と保育、子どもを取り巻く社会 環境、子育て支援について理解する とともに、乳幼児と適切に関わるた めの基礎的な技能を身に付ける。 子どもを生み育てることの意義 について考えるとともに、子どもの 健やかな発達のために親や家族及 び地域や社会の果たす役割の重要 性について考察できる。	10
	7	第9章 『消費行動を 考える』	第1節 消費行動と意思決定 第2節 消費生活の現状と課題 第3節 消費者の権利と責任	消費者の権利と責任を自覚して 行動できるよう消費生活の現状と 課題、消費行動における意思決定や 契約の重要性、消費者保護の仕組 みについて理解するとともに、生活情 報を適切に収集・整理できる。 自立した消費者として、生活情報 を活用し、適切な意思決定に基づい て行動することや責任ある消費に ついて考察し、工夫できる。	6
2 学期	9 10	第7章 『衣生活をつ くる』	第1節 人と衣服のかかわり 第2節 衣服の素材と種類 第3節 衣服の選択から管理まで 第4節 持続可能な衣生活をつくる 第5節 衣服の構造・デザイン	ライフステージや目的に応じた 被服の機能と着装について理解し、 健康で快適な衣生活に必要な情報 の収集・整理ができる。 被服材料、被服構成及び被服衛生 について理解し、被服の計画・管理 に必要な技能を身に付ける。 被服の機能性や快適性について 考察し、安全で健康や環境に配慮し た被服の管理や目的に応じた着装 を工夫できる。	14

	11 12	第6章 『食生活をつくる』	第1節 日本の食文化の形成 第2節 私たちの食生活 第3節 栄養と食品のかかわり 第4節 食品の選び方と安全 第5節 食事の計画と調理 第6節 これからの食生活を考える	ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、事故や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、事故や家族の食事を工夫できる。	14
3 学 期	1	第8章 『住生活をつくる』	第1節 人間と住まい 第2節 住まいの文化 第3節 住まいを計画する 第4節 健康に配慮した快適な室内環境 第5節 安全な住まい 第6節 持続可能な住まいづくり	ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの完全が環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる。	8
	2 3	第10章 『経済的に自立する』	第1節 暮らしと経済 第2節 将来のライフプランニング	家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解できる。 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察できる。	8

7 学習者へのメッセージなど

家庭科は、皆さんにとって一番身近で、学んだことを生活の中で必ず役に立てることができる、生活に直結した教科です。実践的・体験的な授業を行いますので、積極的に授業に参加する姿勢を大切に、常に社会に目を向けて疑問を持ち続け、将来に役立てられるように記憶に残してほしいと思います。これからの社会を担う皆さんが家庭科を学び、自分の手で自分の生活をより豊かにできる、自立した人に育ってほしいです。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ概論	1 単位	必履修	学年	2 年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論 補助教材	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に与える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

2年生では教科書に沿いながら、発展させた内容・教科書に記載されていることの科学的な裏付けなどを触れていき、深めていく。また、内容に関する実践を行っていき実証することに触れる。

3 学習方法

予習 教科書に目を通し内容を理解するとともに、自分の生活との関わりを考える。
復習 授業内容を実際の生活や社会の動きと結び付け、まとめを行う。
課題 スポーツ指導者として必要な知識とスポーツが抱える問題点への気づきができるようになる。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】

自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

【主体的に学習に取り組む態度】

運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
-------	-------	--------------	--------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展Ⅱ	・スポーツの文化的な特性・スポーツの発展に必要な事柄について	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	13
		現代スポーツの問題点	・現代スポーツの問題点を掘り下げ、考察する	・経済的な波及効果が高まるにつれて、スポーツの高潔さが求められているが、伴わない場合がある事を知る。	
		スポーツと社会	・文化的、社会的、経済的な背景など幅広い視点から「する、見る、支える、知る」などのスポーツの姿を学ぶ	・多様な姿をしり、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し解決に向けて思考判断できるようになる。	
		オリンピック・パラリンピック	・その発祥を知る事でスポーツの歴史的発展・多様な変化・現代スポーツの意義・社会にもたらす影響などを学ぶ	・国際大会を通じ世界平和や国際親善に寄与して半面、ドーピングなどスポーツの文化的価値を失わせることに繋がっていること。	
2 学期		競技力向上を目的とした取り組み	・グループ討議を通じてスポーツの持つ課題を検討する	・「する、みる、支える、知る」など、スポーツを多様な視点から考えられるようになる。	14
		競技力を向上させる練習方法・練習計画	・競技力を向上させる練習方法・練習計画について理解を深め、実技等を通して実践する	・競技に合わせた練習系計画が立てられるようになる。	
		競技力向上に向けた指導体制や情報戦略	・チーム・ビハインド・ザ・チームについて学ぶ。	・チームの選手を支える幅広いスタッフの存在を理解する。	
		体力トレーニング	・体力トレーニングの基礎知識について理解を深める。	・安全に実践する方法を理解し、危険な状況の判断、事故につながりそうな予測ができるようになる。	
3 学期		体力トレーニング	・体力トレーニングの実際の方法を知り、実践の注意点を知る。	・具体的に実践していく中で、安全に行う方法を身に付ける。	8
		スポーツライフのマネジメント	・怪我や故障を防ぐために、体調のチェックやウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性を知る。	・自分の競技特性に通じたウォーミングアップ・クーリングダウンができるようになる。	
		栄養でパフォーマンスを高める	・スポーツ栄養の基礎をまなび、競技者が何をどれだけ食べたらよいかを知る。	・自分に必要な1日のエネルギー量を算出し理解できるようになる。	

7 学習者へのメッセージなど

日頃の生活の中で、普通に存在しているスポーツが、社会や我々にどのような影響を与えてきたか、また与えていくのかを考察できるようになってほしいです。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツⅠ～Ⅳ、Ⅵ	4単位	必修	学年	1～3年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健体育 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。

2 授業内容

- 【スポーツⅠ】・採点競技への多様な関わり方・測定競技への関わり方
- 【スポーツⅡ】・ゴール型球技への多様な関わり方・ネット型球技への多様な関わり方・ベースボール型球技への多様な関わり方・ターゲット型球技への多様な関わり方
- 【スポーツⅢ】・武道への多様な関わり方・諸外国の対人的競技への多様な関わり方
- 【スポーツⅣ】・創造型ダンスへの多様な関わり方・伝承型ダンスへの多様な関わり方
- 【スポーツⅥ】・体づくり運動への多様な関わり方・目的に応じた身の気付きや交流を深めるための運動の仕方・ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方

3 学習方法

- 予習** 演習や概論で学んだことや教科書「新高等保健体育」「スポーツ概論」に目を通し、それらを各種目で活用できるようにする。また、課題に適した練習方法や戦術を考える。
- 復習** 考えた練習や戦術を取り入れ、運動観察やゲームなどを通して学習の成果を確認する。
- 課題** 練習やゲームの中の技能や戦術を観察・分析し課題発見に努める。その課題の解決に向けて思考・判断し次の目標に適した具体的な戦術や課題を設定する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

- 【知識及び技能】**
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】**
スポーツの多様な実践を推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
- 【主体的に学習に取り組む態度】**
生涯を通してスポーツと多様な関わりとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	140時間	1学期(52時間)	2学期(56時間)	3学期(32時間)
-------	-------	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 ・ 5 月	I 期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技 【スポーツⅡ】 球技 ゴール型 ネット型 ベースボール型 ターゲット型 【スポーツⅢ】 武道 【スポーツⅣ】 ダンス 【スポーツⅥ】 体づくり	≪1年≫ 【スポーツⅠ】 ・体操（マット運動） ・陸上競技 （短距離走・ハードル） 【スポーツⅡ】 ・バスケットボール （基礎・パス・ドリブル・シュート・アウトナンバー・ゲーム） ・バレーボール （基礎・パス・レシーブ・サーブ・ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・剣道（防具なし基礎） 【スポーツⅣ】 ・ダンス （基本のステップや動き） 【スポーツⅥ】 ・体づくり ≪2年≫ 【スポーツⅠ】 ・体操（マット運動） 【スポーツⅡ】 ・バレーボール （基礎・パス・レシーブ・サーブ・ゲーム） ・バスケットボール （基礎・パス・ドリブル・シュート・アウトナンバー・ゲーム） ・サッカー （基礎・パス・ドリブル・シュート・ゲーム） 【スポーツⅣ】 ・ダンス （基本のステップや動き） 【スポーツⅥ】 ・体づくり ≪3年≫ 【スポーツⅠ】 ・水泳（競技運営） ・体操（マット運動） 【スポーツⅡ】 ・サッカー （基礎・パス・ドリブル・シュート・ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・柔道（形） 【スポーツⅣ】 ・ダンス （基本のステップや動き） 【スポーツⅥ】 ・体づくり	【スポーツⅠ】 ・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 ・採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。 【スポーツⅡ】 ・球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 ・球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。 【スポーツⅢ】 ・武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・球技武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 ・武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	26

	6 ・ 7 月	Ⅱ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技 【スポーツⅡ】 球技 ゴール型 ネット型 ベースボール型 ターゲット型 【スポーツⅢ】 武道 【スポーツⅣ】 ダンス 【スポーツⅥ】 体づくり	《1年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（遠泳練習） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《2年》 【スポーツⅠ】 ・体操（マット運動） 【スポーツⅡ】 ・バレーボール ・バドミントン （応用・ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・柔道（寝技・立ち技） 【スポーツⅣ】 ・ダンス（創作ダンス） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《3年》 【スポーツⅠ】 ・体操（マット運動） 【スポーツⅡ】 ・バレーボール （パス・レシーブ・サーブ・ゲーム） ・バスケットボール （パス・ドリブル・シュート・アウトナンバー・ゲーム） ・ソフトボール （応用・ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・柔道（形） 【スポーツⅣ】 ・ダンス（創作ダンス） 【スポーツⅥ】 ・体づくり	【スポーツⅣ】 ・ダンスの推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 ・ダンスにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 ・ダンスの学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。 【スポーツⅥ】 ・体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・体づくりに関する自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 ・体づくりの学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	26
	8 月 末 ～ 1 0 月 前半	Ⅲ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技 【スポーツⅣ】 ダンス 【スポーツⅥ】 体づくり	《1年・2年・3年》 【スポーツⅠ】 ・体操（組体操） 【スポーツⅣ】 ・ダンス（創作ダンス） 【スポーツⅥ】 ・体づくり	上記に準ずる	28

2 学 期	1 0 月 後 半 ～ 1 2 月	IV期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技 【スポーツⅡ】 球技 ゴール型 ネット型 ベースボール型 ターゲット型 【スポーツⅢ】 武道 【スポーツⅣ】 ダンス 【スポーツⅥ】 体づくり	《1年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技 【スポーツⅡ】 ・テニス（基礎） ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン（基礎） 【スポーツⅢ】 ・柔道（基本動作） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《2年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（4泳法） 【スポーツⅡ】 ・ソフトボール ・サッカー 【スポーツⅢ】 ・剣道 （打ち込み、応じ技防具有） ・柔道 【スポーツⅣ】 ・ダンス（発表会練習） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《3年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（7種競技） 【スポーツⅡ】 ・テニス（応用、ゲーム） ・バレーボール ・バスケットボール ・バドミントン （応用、ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・剣道（試合） 【スポーツⅥ】 ・体づくり	28
-------------	---	--	--	----

3 学 期	1 ～ 3 月	V期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技 【スポーツⅡ】 球技 ゴール型 ネット型 ベースボール型 ターゲット型 【スポーツⅢ】 武道 【スポーツⅣ】 ダンス 【スポーツⅥ】 体づくり	《1年》 【スポーツⅠ】 ・持久走 ・サッカー 【スポーツⅡ】 ・ソフトボール（基礎） 【スポーツⅢ】 ・剣道 ・ダンス （現代的リズムのダンス） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《2年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（4種競技） ・持久走 【スポーツⅡ】 ・バドミントン ・テニス（応用・ゲーム） 【スポーツⅢ】 ・剣道 ・ダンス（発表会練習） 【スポーツⅥ】 ・体づくり 《3年》 【スポーツⅠ】 ・トレーニング 【スポーツⅡ】 ・ホッケー ・バドミントン ・テニス ・アルティメット	上記に準ずる	32

7 学習者へのメッセージなど

スポーツ演習やスポーツ概論で学んだことを生かし、1学年では基礎、2学年では応用、3学年では競技運営について学びます。自分の得意な種目、好きな種目を見付け卒業後も継続して実践及び競技運営等に関わることができるようになろう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ総合演習	1 単位	必履修	学年	2 年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 補助教材	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康安全について理解するとともに技能を身につける。また運動や健康についての自他や社会の課題を発見し合理的計画的な解決に向けて思考判断できるようになり他者に伝えることができる。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す態度を養う。

2 授業内容

スポーツに関わる内容について、多面的・多角的に学び、様々な課題に対する思考力や判断力を身につける。また、時事的な内容を取り扱い、自分の競技生活との結びつきを深めることで、生徒たちの興味関心をさらに引き出す。

生涯にわたって、主体的にスポーツに携わり、社会に貢献できる人物となれるよう、知識を深めるとともに、様々な課題に対応できるような思考力や判断力を養っていく。

3 学習方法

予習 事前に授業で取り扱う題材に関するニュースを見たり、調べたりすることで、授業の内容をより深く理解することができるようにする。

復習 学習内容の理解度の確認、内容を整理するために Forms を使用して授業の振り返りを配信する。

課題 日々の授業後の振り返りに加え、学期毎にレポート課題を出している。スポーツに関わる内容を取り扱い、自分の考えをまとめ、スポーツに関わる理解を深めることをねらいとする。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】

自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

【学びに向かう力、人間性等】

運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
-------	-------	--------------	--------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究	・ 関心のあるスポーツの多様な発展や普及の歴史及び現状さらには文化的特性などを過去の文献から整理し、自らの考えをまとめる ・ スポーツの局面に着目して、戦況の変化を導き出したプレイや対戦相手の戦術の特徴などについて、記録データやビデオ等の映像から分析する	・ 目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	13
2 学期		スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究	・ スポーツ大会やスポーツイベントの企画・運営の仕方について学習したことを活用し、対象に応じて作成した運営マニュアルを検証する・関心のあるスポーツの公式ルールや審判法について調べ、感じ取ったことをまとめる	・ 目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	14
3 学期		スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究	・ 多様なスポーツ推進のための調べ学習を通して、全ての人々が参画できるスポーツの在り方や仕組みについて提案する	・ 目的、手順、所定の手続きに基づくデータの整理、考察、結論の手順でレポートが作成できる。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営についての課題を発見している。 ・ スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。	8

7 学習者へのメッセージなど

運動やスポーツは今や多くの科学分野で研究が進められています。知識や活用する力を身に付けて自身の運動や指導現場に立つときに力を発揮できるようにしましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	専攻実技	2単位	必履修	学年	1～3年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702)新高等保健体育	教科担当			

1 学習の目標

専門種目としてより高度な技術および専門知識を習得する。心身ともに健全な人間形成を図る。それぞれの種目において、指導者としての立場に立てる人材の育成を図り、社会へ出てから、十分に役立てられるよう学ぶ。

2 授業内容

9つの専攻競技(陸上競技、サッカー、体操競技、水泳競技、柔道、剣道、バレーボール、バスケットボール)に分かれ、練習方法やトレーニング理論、戦術などを仲間と探求し、実際にプレーをしながら高度な技術および専門知識を習得する。

3 学習方法

予習 自らの課題やチームの課題を分析し、仮説(問い)を立てる。課題の解決方法や練習方法を考える。
復習 学んだことをそれぞれの部活動や大会等で発揮し、新たな仮説(問い)を作る。
課題 効果的なトレーニング方法や練習方法、戦術を研究し、発表する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解し、スポーツの推進及び発展に必要な知識・技能を発揮できる。

【思考力・判断力・表現力等】

スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考・判断するとともに、他者と適切にコミュニケーションを取り協同することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組むことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70時間	1学期(26時間)	2学期(28時間)	3学期(16時間)
-------	------	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	- 各専攻種目における技術向上のため基礎・基本動作の習得、トレーニングの実施。 - 練習試合や、競技会の実施	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。	26
2 学期	9	ダンス 体操競技	駒場高校の伝統である実技発表会に向け、ダンスや体操の専門的技術を身につける。	実技発表会のために技術、体力を身につけるとともに、安全へ配慮することができる。 他者の演技を認め合い、発表会を楽しむことができる。	28
	10 11 12	サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	- 各専攻種目における技術向上のため基礎・基本動作の習得、トレーニングの実施。 - 練習試合や、競技会の実施	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。	
3 学期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	上記に準ずる	上記に準ずる	16

7 学習者へのメッセージなど

専攻実技は保健体育科ならではの科目です。それぞれの専攻で専門的な技術や練習方法を学び、所属する専攻競技の専門家としてのスキルを身に付けていきましょう。そして、専門家として自らの専攻種目の魅力ややりがいを「する」「見る」「支える」の観点から、周りの人々に伝えていける指導者を目指しましょう。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	総合的な探究の時間	1単位	必履修	学年	2年
使用教科書 補助教材 その他	その都度教材を用意	教科担当			

1 学習の目標

一生「探究」し続けるマインドを育てる

2 授業内容

「探究論文作成」「地域探究」「進路探究」

3 学習方法

- ・「コマバ探Q論文」を対話的に作成
- ・沖縄の地域探究を対話的におこなう
- ・自己の進路について探究する

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】 自己のテーマについて探究論文を作成する

【思考力・判断力・表現力等】 他者と互いに批評しあいながら論文を作成する

【主体的に学習に取り組む態度】 授業の中で主体的・対話的な知識獲得に意欲的に取り組んでいるか。

5 年間予定授業時間

予定時間数	42 時間	1 学期 (19 時間)	2 学期 (20 時間)	3 学期 (3 時間)
-------	-------	--------------	--------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	「探究」とは何か	「探究オリエンテーション」	「探究とは何か」について知る	1
	5	進路探究 地域探究 論文作成	進路ガイダンス 校外学習 鎌倉の探究 「コマバ探Q論文」作成	進路について考える 鎌倉について探究する 論文本テーマ提出	5
	6	講演会 論文作成	鮎川ばて講演会 「コマバ探Q論文」作成	進路について考える 論文を対話的に作成	4
	7	論文作成 芸術鑑賞	「コマバ探Q論文」作成 芸術鑑賞	論文を対話的に作成 芸術を探究する。	3
2 学期	9	論文相互批評 防災講話 オープンキャンパス（8月）	相互批評でクラス代表を決定 防災講話	論文の相互批評能力を高める 防災意識を高める	3
	10	論文発表会 地域探究	クラス代表が論文のプレゼンを行う 沖縄の地域探究をおこなう	論文を批評する 沖縄についての認識を深める	4
	11	地域探究 ワークショップ	沖縄の地域探究をおこなう チームコンセンサス	沖縄についての認識を深める チームコンセンサスについて考える	4
	12				3
3 学期	1	進路探究	担任面談等	進路について具体的に探究する	2
	2	進路探究	担任面談等	進路について具体的に探究する	3
	3	進路探究	担任面談等	進路について具体的に探究する	3

7 学習者へのメッセージなど

「探究の駒場」と言われるような高いレベルの「探究」をめざしましょう。